※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	（学）日本史（近現代）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
副教材等	「新詳日本史」（浜島書店）、「改訂要点整理ゼミナール日本史」（浜島書店） 教員作成プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の出来事を学ぶことで、歴史的思考力を身に着ける。
・歴史的な観点から我々の生きる現代社会の諸問題を捉えなおし、再定義できるようになる。
・近現代の歴史の中で日本という国の発展と国際的な位置づけを認識する。
・日本の歴史だけにとどまらず、世界の出来事にも目を向ける。

２　学習の到達目標

（１）日本近現代史に関する基礎的な知識を身につける。
（２）日本の近現代史について、現代につながる政治上・経済上の諸課題について考察を深める。また、大衆化していく文化面から、社会に与える影響力について考察する。
（３）日本の近現代史を通して、現代社会のあり方について自己の意見をもつ。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	近現代を中心とする日本の歴史についての基本的な史実や歴史用語・概念についての知識を、地理的条件や世界史と関連づけながら理解している。また、様々な史資料から、有用な情報を選択し、読み取ることができる。図表などにまとめたりする技能を身に付けている。	我々の生きる現代の諸課題を授業で学んだ歴史的観点から考察し、世界と日本社会の変化に関する科学的な認識をもとに冷静かつ公正な判断をくだせるか。また、その思考の過程や結果を適切に他者に対し、表現している。	国家・社会を形成する主権者としての責務を果たそうとする意欲があり、歴史的事象や社会的な諸関係に対する関心と課題意識を持ち、課題を意欲的に追究、解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近代国家の展開・近代の産業と生活	・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	a: 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b: 議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

		・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活の変容と大衆文化	a：産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 b：地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

２学期	恐慌と第二次世界大戦・占領下の日本	・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦	a：国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 b：ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 c：当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

		・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	a: 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。 b: 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。 c: 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

３学期	高度成長の時代・激動する世界と日本	・55 年体制 ・経済復興から高度経済成長へ	a: 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。 b: 日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。 c: 55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート
		・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容	a: ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。冷戦終結後の国際関係、55 年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 b: 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c: 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査	プリント・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度